

関西支部勉強会レポート

第35回関西支部勉強会

Science Communication practice, training and research in Israel

日時 2012年9月13日（金）18：00～20：00

場所 京都大学 吉田泉殿

ゲスト Dr. Ayelet Baram-Tsabari

Assistant Professor of Biology Education & Science Communication,
Department of Education in Science and Technology, Technion -
Israel Institute of Technology

人数 8名

イスラエルから訪日中のゲストをお迎えして、関西支部勉強会を開催しました。

お話の目次：

1. 簡単な自己紹介
2. イスラエルの科学コミュニケーション
 - ・伝統的なニュースメディア（科学報道）は量・質ともに低下傾向にあるが、ニューメディアを用いた科学情報の発信、サイエンスカフェ、インフォーマルな科学教育といった新たな取り組みは充実してきている。
 - ・所属する大学では実践を意識した科学コミュニケーションのコースを展開しており、また、国内で学会を開催するなど、実践者と研究者を含んだ科学コミュニケーションのコミュニティ形成に力を入れている。
3. 科学コミュニケーションを評価する
 - ・科学者のライティングスキルの評価のために、主にジャーゴン（専門用語）の使用頻度に着目した手法を開発した。（Bruce Lewensteinとの共著論文がPublic Understanding of Scienceに出版されている）
 - ・大学生向けの科学コミュニケーションの授業の評価では、2時間だけの講義の受講者と1学期間の受講者との間で、科学コミュニケーション理論や科学と社会の関係性についての理解の深まり方の違いを比較し、有意な結果を得た。
4. 質疑応答
 - ・科学者達は科学コミュニケーションに対してどんな態度？

関西支部勉強会レポート

- ・開発したライティングスキルの評価手法は主にジャーゴンの使用を見ているけど、他の要素も加味した全体としてのライティングの質の評価とどれぐらい合致している？
- ・政府が発信する情報はあまり信用されていない一方で、軍のラジオがメディアとして信用されているというのはどうして？



科学コミュニケーション研究会 関西支部有志

第 35 回 記録担当：工藤 充（京都大学）

第 35 回 運営担当：加納 圭（滋賀大学）、工藤 充（京都大学）